

水産海洋地域研究集会

2019 年度九州沖縄地区合同シンポジウム
魚礁を取り巻く海洋環境と漁場整備技術

共 催：一般社団法人水産海洋学会，日本海洋学会西南支部，日本海洋学会沿岸海洋研究会

日 時：2019 年 11 月 27 日（水） 10：30～16：40（受付 10：00）

場 所：佐世保市労働福祉センター（佐世保市稲荷町 2 番 28 号）

コンピナー：杉松宏一・樽谷賢治（水産機構西水研）・井上誠章（水産機構水工研）・滝川
哲太郎（長崎大学）

挨 拶：

10：30～10：35

趣旨説明：杉松 宏一（水産機構 西水研）

10：35～10：40

基調講演

座長 樽谷賢治（水産機構 西水研）

1. 魚類の浮魚礁利用：五島列島周辺漁場の例 10：40～11：20

○松下吉樹・Khyria Swaleh Karama・高橋千代・中村乙水・河邊玲（長崎大学）

2. 洋上風車の魚礁効果（総説）：魚礁としての利用可能性と課題 11：20～12：00

○中田英昭（長崎大学名誉教授）

—昼休み—

一般講演

座長 井上誠章（水産機構 水工研）

3. 山口県萩市見島沖八里ヶ瀬における潮流と湧昇流推定 13：30～13：50

○滝川哲太郎（長崎大学）・後藤敏光（パスコ）・濱野明（ACMS コンソーシアム／水産機構水大校・名誉教授），中村武史（水産機構水大校）

4. 堆近傍の粒子物質輸送過程に関する数値的研究 13：50～14：10

○古市尚基・大村智宏（水産機構 水工研）・松村義正（東京大 大気海洋研）

5. 鹿児島県甕島周辺海域に設置した海底地震計を簡易魚礁と見なした場合の生物相

14：10～14：30

山脇信博・○筒井英人（長崎大学）・高橋孝三（九州大学/北星学園大学）・
桑野和可・鈴木利一（長崎大学）・西田史朗（奈良教育大学）・合澤格・楠本
成美・保科草太・木下宰・八木光晴・森井康宏（長崎大学）

6. ドローンと機械学習を用いた海岸漂着ごみ定量化手法の構築 14:30~14:50
○森田翔平・種田哲也・加古真一郎（鹿児島大学）

—休憩—

座長 滝川哲太郎（長崎大学）

7. 宮崎県における浮魚礁について 15:00~15:20
○渡慶次 力、堀江ひかり、林 悠真（宮崎水試）
8. CPUE の標準化手法を応用した対馬周辺海域における人工魚礁の効果範囲推定
15:20~15:40
○井上誠章（水産機構 水工研）
9. 広域漁場整備のための周防灘マコガレイの生態系ネットワーク評価 15:40~16:00
○杉松宏一（水産機構西水研）・佐藤允昭・古市尚基（水産機構水工研）・遠藤次郎（アルファ水工）
10. 人工魚礁の利用実態把握から効果予測に向けて 16:00~16:20
○桑本淳二（水産土木センター）

総合討論

座長 杉松 宏一（水産機構 西水研） 16:20~16:40

開催趣旨：魚礁は、周辺に広く分布する魚類を集める蝟集効果、稚仔魚の保護・育成場を提供する効果、食物連鎖を活発にして生物の生産性を高める機能などがあるとされ、多くの人工魚礁が日本各地に設置されてきた。しかし、その効果については定性的な評価に留まっており、定量的な検討は十分になされていない。

近年の沿岸域は、水産資源の低迷、漁業人口の減少、漁業の省エネ化、地球温暖化への適応など、水産業を取り巻く情勢が変化してきている。持続的かつ効率的な沿岸漁業を確立するためには、魚礁の有効性について改めて検証する必要がある。そのためには、魚礁を取り巻く海洋環境の詳細や漁業による利用状況、魚礁機能が発現するメカニズムの解明とその定量化、効果的な魚礁の形状・規模と配置方法などが必要とされるが、これらの検証を可能とする調査データや知見の蓄積は未だ少ない。

このような背景から、本シンポジウムでは魚礁を取り巻く海洋環境調査と漁場整備技術の現状を整理し、豊かな生態系を持続的に利用するための漁場整備の方向性や今後どのような研究を行うべきかを議論することを目的とする。対象とする魚礁は、人工礁、天然礁、浮魚礁を問わない。また、周辺海域の環境変化に伴う漁場（例えばフロント）や藻場の形成などに関する報告をもとに、沿岸域から沖合域までの海洋・漁場環境をより広く総合的に議論する。